

〈十二月の言葉〉

「月刊 致知」より

〈辛抱〉 しん ぼう

辛いことは、誰の身にも訪れます。嫌がってそれを払うけれども、また、辛いことはやってきます。辛いことを払っているうちは、いつまでもつきまとわれますが、払うことをやめ、辛さを抱きかかえること。これを、「辛抱」と言います。自分の都合のいいことと、不都合なことを選り分ける相対の世界を超え、引き受けることで道は開けるのです。